

令和3年度 建設環境常任委員会意見交換会報告書

開催日時	令和3年11月10日（水）午後5時～午後6時40分
開催場所	富士見市役所1階 全員協議会室
テーマ	富士見市農業の目指すところと課題
出席議員	加賀奈々恵委員長 小川匠副委員長 小泉陽委員 伊勢田幸正委員 尾崎孝好委員 篠原通裕委員 勝山祥委員
参加人数	参加者 8人（団体名 富士見市農業青年会議所）
実施内容	進行：小川副委員長 1 開会 2 議長あいさつ 齊藤隆浩議長 3 委員長あいさつ 加賀委員長 4 農業青年会議所会長あいさつ 加治会長 5 委員自己紹介・参加者自己紹介 6 グループごとの意見交換 Aグループ（加賀委員長、尾崎委員、篠原委員） Bグループ（小川副委員長、小泉委員、伊勢田委員、勝山委員） 7 各グループの発表 8 副委員長あいさつ 小川副委員長 9 閉会 議会事務局 本多事務局長、吉田次長 幕田主事

1 意見交換で出された意見の概要

< Aグループ >

「はじめたきっかけ」

- ・代々農家。就職したが、時機を得て就農した。
- ・農業に従事したいと考えており、耕作地を借りられたことで就農した。

「大変なことや不安」

- ・農作業を行う時間や収穫の時期が天候に左右されること
- ・耕作地沿いに宅地化されていること
- ・収入が少ないこと
- ・カラスなどによる被害を防ぐため、鳥獣害対策を行う必要があること
- ・相続した田畑を維持すること
- ・農機具を取得すること

「やりがい」

- ・農作物を食べた方からお褒めの言葉をいただけること
- ・手間暇がかかり子育てをしている感覚で成長を楽しめること

「その他」

- ・販売できない収穫物の廃棄方法について、野焼きができるとありがたい。
- ・近隣住民の方に収穫物を差し上げて交流を図っている。
- ・カラスから農作物を守るために工夫をしている。

< Bグループ >

「はじめたきっかけ」

- ・代々農家。就職したが、時機を得て就農した。
- ・家業は野菜加工であったが、農業に興味を持ち、就農した。
- ・代々受け継いできた土地を引き継ぐために農業に従事している。

「大変なことや不安」

- ・価格設定が難しいこと
- ・気候変動により、農作物の収穫量が変化すること
- ・ランニングコストが上昇していること
- ・イニシャルコストがかかること
- ・米づくりにおいて、米価が下がり続けていること
- ・米づくりは、収穫が年に一度であること
- ・肉体的に過酷であること
- ・将来について、経営、承継などの見通しが立たないこと
- ・現在、広範囲の農地を一人で経営されている方がいるが、将来、そういった方が引退されたら耕作地がどうなるのか分からないこと

「やりがい」

- ・「おいしい」と言ってくれることが何よりもうれしい。
- ・直売所では購入者から感想や意見を聞くことができる。
- ・土地、土質の特徴によって栽培技術が異なる。その特徴を見極め収穫にいたることが楽しみである。

「その他」

◇共同経営についてどう思うか

- ・米はできるが、野菜は難しい。
- ・農機具の共同購入には興味がある。
- ・農機具の管理が大変である。
- ・親の世代には理解してもらいにくく、個人経営の指向が強い。

2 まとめ

今回の意見交換会では、大変和やかな雰囲気意見交換することができた。グループを2つに分けたことにより少人数での語り合いとなったことが功を奏したと思われる。

農業をはじめたきっかけについて、参加者のうち多くの方は、親が農業従事者で農業を継いだという方であったが、新規に就農された方もいらっしゃった。

大変なことや不安については、経営の難しさという点では、利益を上げるためのマーケティング、経費の変動や環境要因の変化といったことが挙げられた。農業の将来という点では、担い手不足や、農作地の継承に対する障壁が挙げられた。また、将来に関しては不確定要素が多く、ライフプランが立てにくい様子であった。

やりがいについては、食べた方に満足して頂けること、喜びの声が聞けること、ファンができること、個々の環境に適応した技術の工夫や努力の結果が収穫となって現れることが挙げられた。

その他として、廃棄の問題が挙げられた。また、共同経営について意見を伺うと、経営の効率化という面において一部興味はあるものの、現実的なイメージが描きにくいとのことであった。

参加者の意見から、農業を続けていくことの大変さや日々努力されていることを学んだ。参加者の貴重な意見を今後の委員会活動に活かしていきたい。

※この記録は、意見交換会での発言をまとめたものです。

発言内容は、趣旨が読み取れる範囲で一部要約してあります。